

川へ行こう！ 川を楽しもう！



# かあたび ぼっかいどう

## 天塩川の歴史と治水事業



# 江戸時代から振り返る 天塩の移り変わり

## 江戸時代

天塩川流域と天塩川沿岸には、昔からアイヌの人たちの集落があった場所で、当時は"コタン"と呼ばれていました。

宗谷のトンベツ（今の浜頓別）には、チョウケンが北方の交易を担っていました。また、ルルモツペ（今の留萌）では、その孫のコタンピルが山丹交易品を多く身に付けていたことから、彼らが日本海西岸の山丹交易の重要な担い手であった可能性が強いと考えられています。

(出展：留萌地域のアイヌ文化)



## 探検家 松浦武一郎

松浦武一郎は天塩川を探検し、北海道内陸の詳細な地勢を明らかにした幕末の探検家です。

安政4年（1857）6月6日に天塩川の調査に出発しました。河口から川筋をたどり、幌延、雄信内、中川と進み、音威子府、美深を過ぎて名寄へと至りました。

その道中で、故事に詳しいアエトモ長老から「アイヌの人々は自らその国を呼ぶとき、加伊と言い、それはこの地をさす地名である。」と話を聞き、明治2年に道名に関する意見書を明治政府に提出しました。

「北海道」の名は、この地でアエトモ長老と出会ったことから生まれたのです。



松浦武一郎  
(出展：松浦武一郎記念館蔵)

# ニシン漁の歴史

## ◆ ニシン漁の始まり

蝦夷地での本格的なニシン漁は松前地方（現在の八雲町から函館市まで）の海岸線で始まりました。元禄年間(1688-1704)に入ると、さらに北の西蝦夷地に出稼ぎをする人が増え、弘化元年(1844)には留萌地方にも、ニシン漁民が入ってくるようになりました。

## ◆ 天塩地方のニシン漁場

天塩地方は豊かな漁場に恵まれ、漁業が盛んな地域でした。各地から多くの漁夫が集まり、春のニシン場と秋のアキアジ(鮭)場は、天塩の漁業を代表するものとなりました。

近世末より漁は天塩川の河口地帯を中心に行われ、天塩場所の天塩請負人栖原屋や、庄内藩、水戸藩などの手によって隆盛を極めました。

建網や刺網を用いて行われるニシン漁は、親方、船頭、下船頭そしてモッコシヨイにいたるまで多くの人々により組織されました。

番屋で共同生活をしながら、身欠き、しめ粕などのニシン加工が行われていました。



漁道具

(出展：天塩川歴史資料館蔵)



天塩でのニシン漁の歴史  
はここから始まったんだよ!

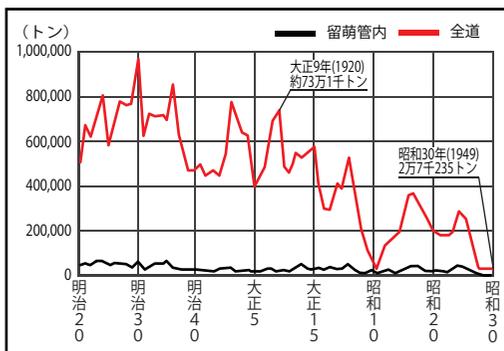
てしお仮面 天塩町の特産品「しじみ」  
をモチーフとしたキャラクター

## ◆ ニシン漁の移り変わりと衰退

明治9年(1876)開拓使は漁場持ちを廃止し、ニシン漁場を開放して営業は自由になり、漁獲量は増えニシン漁は盛んになっていきました。

しかし、明治30年(1897)まで順調に漁獲高を伸ばしてきたニシン漁にも、停滞衰退の兆しが見え始めます。

漁獲高が減少し始め昭和30年(1949)の留萌238トン、全道2万7千235トンを最後に北海道沿岸のニシン漁は終わりを迎えました。

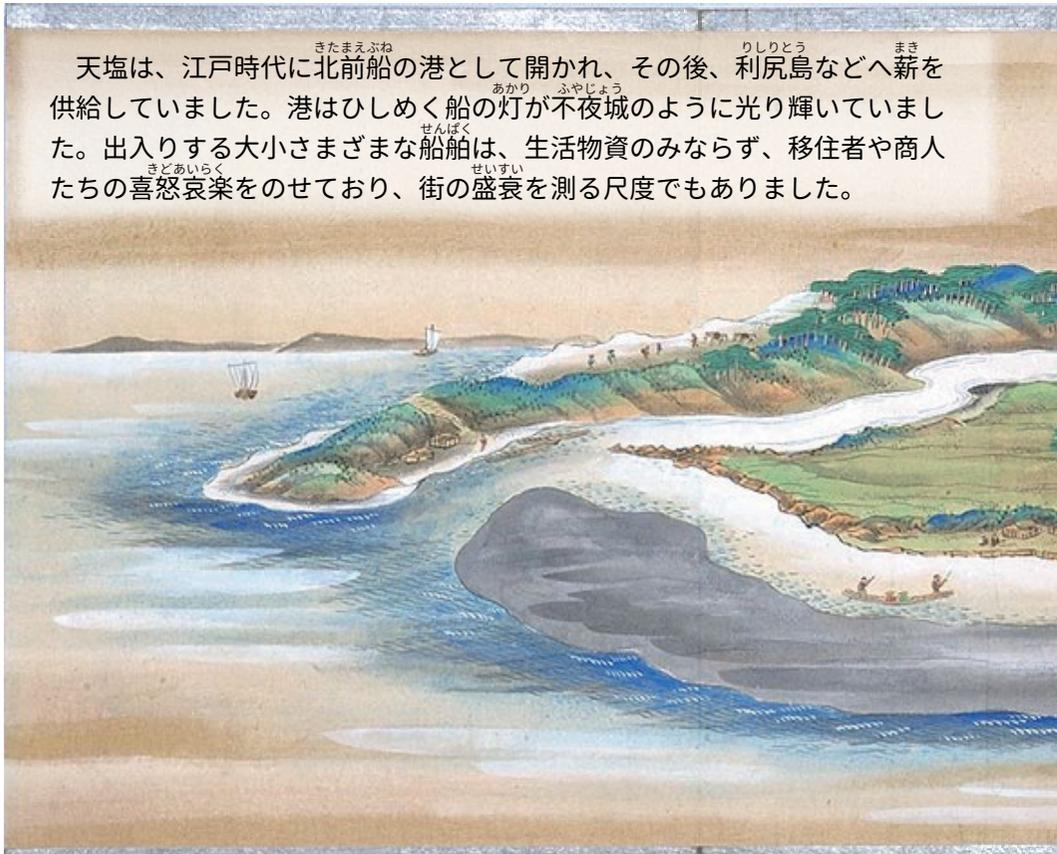


全道のニシン漁獲量の推移(明治20年～昭和30年)  
(出展：留萌市教育委員会)

# 交通路としての天塩川

## 明治時代

天塩は、江戸時代に北前船きたまえふねの港として開かれ、その後、利尻島りしりとうなどへ薪まきを供給していました。港はひしめく船あかりの灯ふやじょうが不夜城のように光り輝いていました。出入りする大小さまざまな船せんぱくは、生活物資のみならず、移住者や商人きどあいらくたちの喜怒哀楽をのせており、街の盛衰せいすいを測る尺度でもありました。



出展：北海道大学附属図書館北方資料室蔵

### 天塩川の開拓

天塩港は明治30年代から昭和初頭にかけては、全国にその名をとどろかせた「天塩材」の集積地しゅうせきちでした。沖には木材積取船つみとりせんが停泊し、港内には舢舨船はしげせんや、天塩川流域の開拓地に貨客を運ぶ長門船ながとせんが盛んに往来していました。

天塩川は多くの人や物資・文化を天塩の地に定着させる原動力でした。造材山そうざいやまの木材は筏いかだに組んで天塩川を流送され、天塩港の沖で待つ積取船つみとりせんによって本州や小樽に運ばれました。小樽から多くの日用雑貨が海路天塩港に運ばれ、天塩川を通じて内陸の各地に送られました。岸に寄り付くニシンや鮭を目的とした漁業も盛んで、天塩は陸運の発達や鉄道が開通する昭和10年ころまで、木材と漁業の繁栄に支えられ、小樽に次ぐ最先端の街として栄えました。

## 交通路のルート

当時、陸路(道路)は整備されておらず、舟運(河川)によって物資を運搬していました。

天塩川は日本で一番距離の長い河川航路で長門船が使われていました。

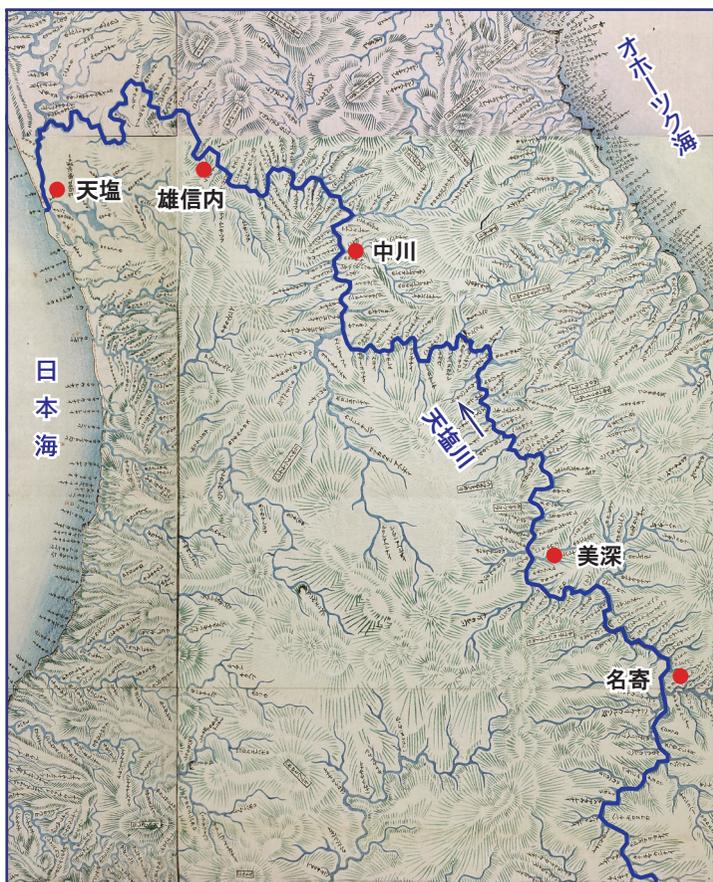


ながとせん  
長門船

(出展：天塩川歴史資料館蔵)



◆ てしおかこう おのぶない なかがわ びふか なよろ いた こうろ  
天塩河口 - 雄信内 - 中川 - 美深 - 名寄に至る航路



(出展：東西蝦夷山川地理取調図 松浦武二郎記念館蔵)

### ◆ 天塩川の由来

アイヌ語の「テッシ・オ・ペツ」に由来し「梁・多い・川」という意味です。「梁」とは、魚を捕る仕掛けのことで、岩が梁のような形で川を横断している場所が多数見受けられました。

# 天塩川の主な洪水と治水事業の経緯

天塩川流域では明治の入植以降、幾度となく洪水被害を経験し、下流では昭和30年代から捷水路や堤防工事などの治水工事が行われるとともに、昭和50年代からは浚渫・掘削、川幅拡幅工事が本格化しました。

## 主な洪水と治水計画

S14.7 不明 雨量197mm/3日

死者1名 家屋被害180戸  
浸水面積3,918ha

S27.7 低気圧 雨量 92mm/3日

家屋被害1,114戸 浸水面積400ha

S28.7 前線 雨量101mm/3日

死者8名 家屋被害1,752戸  
浸水面積9,643ha

S30.7 低気圧 雨量195mm/3日

死者8名 家屋被害2,125戸  
浸水面積5,907ha

S30.8 前線 雨量149mm/3日

家屋被害1,177戸 浸水面積4,927ha

S41 工事実施基本計画策定

S45.10 低気圧 雨量205mm/3日

家屋被害193戸 浸水面積2,511ha

S48.8 台風・前線 雨量230mm/3日

家屋被害1,255戸 浸水面積12,775ha

S50.8 台風・前線 雨量211mm/3日

家屋被害2,642戸 浸水面積11,640ha

S50.9 低気圧 雨量109mm/3日

家屋被害117戸 浸水面積4,253ha

S56.8 低気圧・前線・台風 雨量283mm/3日

家屋被害546戸 浸水面積15,625ha

S62 工事実施基本計画改定

H4.7・8 前線 雨量124mm/3日

家屋被害9戸 浸水面積288ha

H6.8 前線 雨量130mm/3日

家屋被害138戸 浸水面積854ha

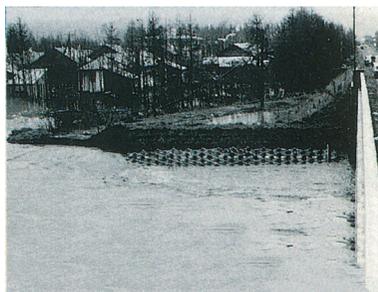
H13.9 前線・台風 雨量183mm/3日

家屋被害2戸 浸水面積315ha

H15.2 天塩川水系河川整備基本方針策定

H19.10 天塩川水系河川整備計画策定

※雨量は観測所代表地点



昭和45年10月洪水 幌延町 問寒別市街



昭和48年8月洪水 音威子府村



昭和50年8月洪水 天塩町 天塩川河口



昭和56年8月洪水 幌延町 南下沼地区

# へんせん 天塩川の変遷とまちの発展

天塩川で洪水時の水位を下げることににより、天塩川沿川には、農地や市街地が形成され、天塩川流域の礎が築かれました。

## 昭和40年代以前



下流部で河川の切替工事(捷水路)が行われました。



河川沿いに市街地が点在し、林業などが盛んでした。

## 昭和40年代以降



中流部で河川の切替工事(捷水路)が行われました。



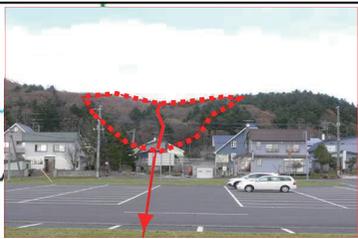
河川沿いに市街地や農地等の土地利用が進み、資産が集積しています。





# 下流域の地域産業を浸水被害から守る治水対策の推進～

水系においても、日本有数の乳製品原材料生産を支える農地の機能確保、区間においては、天塩川流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和56年被害の軽減を図ります。



砂防関係施設の整備（地すべり）  
（宗谷総合振興局）

- 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策
  - ・堤防整備、河道掘削等
  - ・砂防関係施設の整備
  - ・農業用排水施設及び農用地整備等
  - ・森林整備等
  - ・治山対策
  - ・地震津波対策

- 被害範囲を減少させるための対策
  - ・ハザード情報を活用した土地利用等の調整・検討
  - ・まちづくりでの活用を視野にした多段的な浸水リスク情報の検討

- 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策
  - ・関係機関による流域タイムラインの作成
  - ・ハザードマップ等の作成更新と利用促進（水災害リスク情報空白地の解消にむけた取組み）
  - ・土地等の購入にあたっての水災害リスク情報の提供
  - ・防災教育等の実施
  - ・水防意識啓発のための広報の充実
  - ・支援および受援活用の強化
  - ・マイ・タイムラインの作成
  - ・要配慮者利用施設の避難確保の計画作成促進等
  - ・自主防災組織の充実、強化
  - ・防災情報伝達手段の整備検討、充実
  - ・排水作業準備計画の作成



凡例	
	堤防整備
	河道掘削
	浸水範囲
(戦後最大の昭和56年8月洪水)	
	市街地
	国道
	高規格幹線道路
	JR線
	大臣管理区間

天塩川下流域を守る河道掘削（留萌開発建設部） 天塩川下流域治水協議会 ▶



# 天塩川の河川整備による効果

天塩川の整備を進めることで地域経済の発展に結びつきます。



## 天塩町・幌延町の生乳は 国産バター<sup>①</sup>の1割を担う

—工場で使用する生乳の約2/3を天塩町・幌延町で生産—

### 工場1日あたりの生産量は約10万個

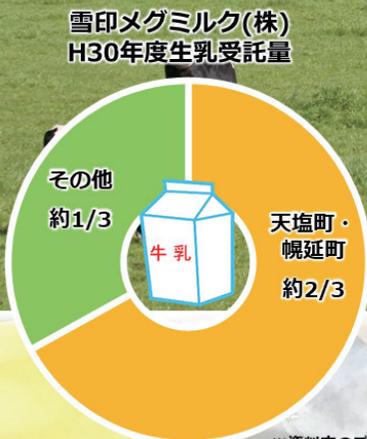
生産した「生乳」は、幌延町内の工場<sup>②</sup>でバターや脱脂粉乳として製造され、道内ほか全国へ出荷



日本全体で100万個/日の消費量があり、そのうち1割が幌延工場<sup>③</sup>で生産される。



雪印メグミルク(株)  
幌延町の工場を製造



※資料内のデータは北海道開発局留萌開発建設部推計値

#### バター出荷先割合(%)



過去の洪水による酪農施設・農地の冠水



昭和50年9月  
浸水被害: 8,609ha

治水事業の推進により洪水被害の軽減



堤防整備

◆治水対策

○治水事業の推進 (乳製品の安定供給に貢献)

# 天塩川下流の汽水環境を再生したら オジロワシ・オオヒシクイがやってきた！

■ 天然記念物であるオジロワシ、オオヒシクイの生息地等として重要



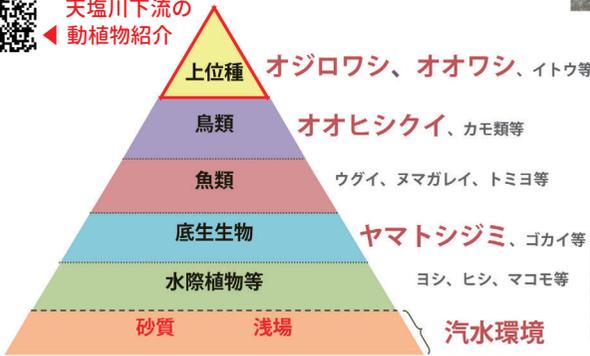
北海道天塩町  
Hokkaido teshio town official website.

天塩川下流域における生態系

汽水環境の創出により、生態ピラミッドを再建



天塩川下流の  
動植物紹介



堤防の上で休むオジロワシ



旧川でマコモを食べるオオヒシクイ



天塩川のヤマトシジミ



## 天塩かわまちづくりに 地域住民は期待している！

ミスベリング×高校生×かわまちづくり=世代を超えたマチと水辺の活性化

まちづくりに若者（高校生）の  
発想を活かそう！！

水辺の活性化を目指し！  
水辺で乾杯！！

水辺の素材を活用した食材！  
イタドリジャム！！



# かわたび北海道の取り組み

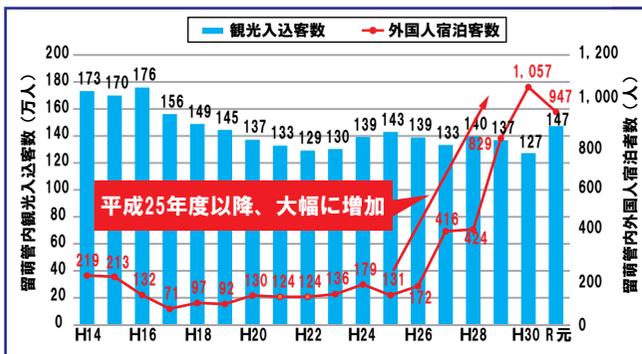
水辺の活用に係るニーズの発掘・マッチングの促進、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出等により、地域づくり・観光振興に貢献するプロジェクトが「かわたび北海道」です。



天塩川河川公園と利尻富士

水辺を活用したイベントを実施しています。

川の自然環境、景観、水辺環境、サイクリング環境等を活用したインフラツーリズムを推進しています。



「留萌管内観光入込客数及び外国人宿泊客数について」(出展:北海道留萌振興局)



◀釣りとカヌーイストの聖地  
(かわたびほっかいどう事務局提供)

ダウン・ザ・テッシ (ツーリング・カヌーイベント)



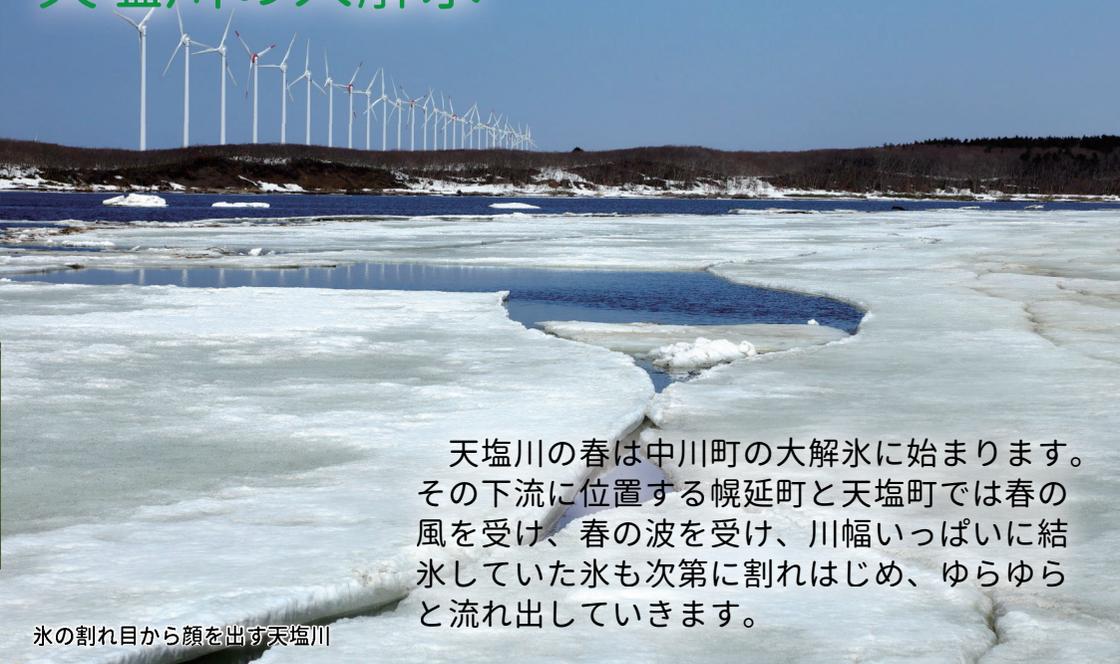
鏡沼しじみまつり



川の自然観察会



# 天塩川の大解氷



天塩川の春は中川町の大解氷に始まります。その下流に位置する幌延町と天塩町では春の風を受け、春の波を受け、川幅いっぱい結氷していた氷も次第に割れはじめ、ゆらゆらと流れ出していきます。

氷の割れ目から顔を出す天塩川



朝日を受け流れる砕氷



天塩川に舞うオオワシ



雲も踊りだす天塩川の春



砕氷の上でひなたぼっこする鶺鴒

待ちわびた春の訪れ ▶  
(かわたびほっかいどう事務局提供)





天塩町の自然環境や景観、河川空間を楽しむことができます。

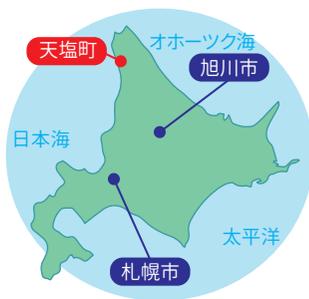


の奥に広がる日本海。そこに沈む利尻富士のコラボレーションに絶景！町外からの来訪者も多く見られることのできる神秘的な森。時間も忘れられる癒し空間です★



草木が生い茂る散策路の中には、復元された竪穴式住居があり大昔の様子を垣間見ることのできる神秘的な森。時間も忘れられる癒し空間です。

<天塩かわまちづくり協議会>



◆ 交通アクセス

《旭川市 →← 天塩町》

所要時間 (バス) 約320分  
距離 約199km

《札幌市 →← 天塩町》

所要時間 (バス) 約270分  
距離 約261km

万人 (平成 12 年)  
、豊富町、幌延町他

## 天塩川の歴史と治水事業

〈製作〉 国土交通省北海道開発局 留萌開発建設部 治水課

〈協力〉 天塩川歴史資料館

川へ行こう！川を楽しもう！



かわたび  
ほっかいどう

<https://kawatabi-hokkaido.com/>

